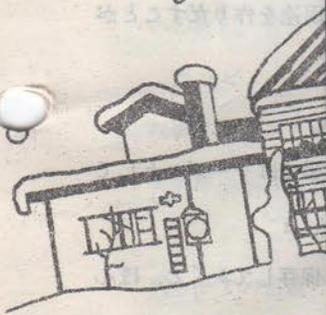


HOSHOKUZI



1986. DECEMBER

NO.145

パソコン強要講座

長谷 勇治

目 前に原稿用紙がある。木曜の運営の時に頂いた有難いお土産である。お土産を頂いたらお返しをしなければならない。よってここにパソコン強要講座を開講することになります。

現在県民天文台には2台のパソコンがあります。以前からあったものと、つい最近発表されたばかりの新製品で、熱心な人によって利用されています。しかし、あの百個ほど並んでいるキーボードを見ただけでしごみして触ろうともしない人が多いのも事実です。そこで、2台合わせれば立派な20cm反赤が買えるほどの金額になるパソコンをぜひ多くの人に活用してもらい、又、パソコンが目当てであってもよいから来台してくれる会員を一人でも増やしたいというのがこの講座の開講理由です。以後の話はすべてパーソナルつまり個人でパソコンを使うという前提で進めます。

＝パソコンは何の役に立つのか。＝

趣味がパソコンだと言えば大抵この手の質問を受けますが、はっきり言って自宅で使い限りにおいてはコンピューターでなければ出来ないような事など家庭内にはありません。パソコンを家でつかっている人で元を取ったと言えるような実用的利用をしている人はほとんどいないと思います。

パソコンを実用品だと考えれば確かに投資以上の利益を生み出すことはほとんどないでしょう。しかし、それをいなら我々共通の趣味である天文など金食いだけで役に立たない最たるものと言えるでしょう。要は、趣味というものは何の役に立つかではなく、どれだけ楽しめるかだと思います。こんなことを書くと、パソコンは有効な使い道のない高価なおもちゃだと思われるかもとれません。そんなことはありません。ソフト(利用プログラム)次第では無限の用途を作りだすことができます。以下に、いくつかの用途を列挙してみます。

1. ワープロとして使える。

現時点ではこれが最も大きいパソコンの使い道のようにです。実際、私の職場ではワープロとして使われることが多いため、パソコンとワープロの区別が付かない人が何人もいます。和文タイプよりずっと早く文章が作れるし一度作った文章を磁気ディスクに保存しておくと、ほんの少しの修正(日付など)で何度でも再利用できます。ただ、パーソナルワープロがフロッピーディスク付の物さえ10万以下で買えるようになった現在、この目的のためだけにパソコンを買うのはもったいないと思います。

2. 市販のビジネスソフトを使えばさほど複雑でない表計算などは簡単にこなせる。

ソフトによってはかなり面倒なデータ処理でもできるものがあります。このようなソフトを使っ

て住所録を作ったり、天体観測のデータを記録しておいたり、種々の文献その他の情報をメモしておいて必要な時に自由自在に検索、利用することができます。

3. ゲームができる。天文計算ができる。 説明の要なし。
4. パソコン通信ができる。

天文台でも使っていますが、一般の電話回線を使って他のコンピュータ(必要があれば外国とも可)と情報のやりとりができます。必要な物としてはパソコンの他に電話回線に接続するための装置があります。現在、ブームと言っているくらいに流行っているようですが、電子掲示板又は伝言板的な使われ方が最も多くて、はっきりした目的をもった使い方は少なく、その使い道を模索している人ばかりです。パソコン通信として考えればそれでいいわけでアマチュア無線に興味のある人などに向いた使い方かもしれません。ただ、現在のところデータの転送速度が遅くて1回の通信に数分~数十分かかり県外との通信をしようとするとかかなりの電話代を覚悟しなければなりません。

今後、非常に発展の期待できる分野ですので先がたのしみです。

ちなみに天文台では天文情報のやりとりに利用しておりG S Wでは随分活用されました。

5. プログラム言語により各種プログラムを作れる。

これが「パーソナル」コンピュータの最もコンピュータ的な使い方であり、苦勞して作ったプログラムが思い通りに動いてくれた時の喜びは、真冬の長時間手動ガイドの写真がバッチリ写っていた時の喜びに通じるものがあると思います。我々はプロではありませんからプロ級の素晴らしいプログラム作るのは困難ですが、自分の使用目的に本当に合ったものを作れるのは結局自分しかいないのだし、自分で使うのであれば多少きこちないプログラムであっても充分間に合います。

コンピュータのプログラムというと高度な数学の知識を必要とすると考えている人も多いかもしれませんがプログラムは手続きの集まりであってむつかしい数式はほとんど使いません。但し、天文計算などのようなものについてはプログラミング能力とは別に数学的な知識と能力が必要です。

プログラムを作るためにはプログラム言語を知らなければなりません。プログラム言語は人間に判りやすい言葉で記述したものを機械に判る言葉に翻訳する仕事をします。

プログラム言語には多くの種類がありますが、初心者にはパソコンにおまけで付いてくるBASIC言語がよいでしょう。この言語は実行速度は遅いのですがプログラム作成や修正が簡単だし、何ととってもタダというのが魅力です。ちなみに他の言語を買うと数万から数十万円します。

パソコン講座・BASIC講座なるものがあちこちで行われているようですがパソコンは「習うより馴れる」です。予算が許すならぜひ自分の机に1台置いて壊れるくらいにこき使ってみてください。新しい世界が見えてくることでしょう。

『星屑』が届く日

土山 由紀子

見知らぬ土地での一人暮らしゆえ、疲れて帰る私を迎える郵便物は大きな慰めなのです。見慣れた『星屑』の封筒……。幽霊会員のもとへも毎回ちゃんと届いてくれるんだなあ、と当たりまえのことに、ふと感心したりして、ページをめくると、今では執筆者の大半はお目にかかった覚えのない方々なのですが、でも、相変わらず、といった感じが伝わってきます。

私が初めて『星屑』を手にしたのは高校二年の九月、丁度、天文台建設計画が具体的になりつつある頃でした。当時私は第二高校地学部にいましたが、女子部員の星見は制限がひどく、何とかもっと自由に星と戯れる場欲しさの熊天研入会でしたから、天文台の完成をこんなに楽しみにしていたことか。今では倉庫になっている小屋だけがようやく建った天文台建設予定地で、十一月初めの寒い一晚を安達さんや松本君ら5人程で、晴れるのを待って過ごしたこともありましたっけね。

しかし、天文台完成の春、大学に合格すれば私は熊本を去ることになる筈でした。天文台へ未練たっぷりだった私は、入試たけなわの一月や二月でさえ熊天研の例会へ足を運んだのです(別に、大学に落ちようと思ったわけではありませんが)。その頃、進学に関して悩んでいた私を励ましてくださった会員の皆様には、今でも感謝の念が尽きません。

結局、開所式の日どりも決まった天文台を後に、私は静岡大学へ。帰郷の折りには天文台へ顔を出すのも忘れませんでした。いつか『星屑』を読むだけの会員になってしまいました。それでも大学では地学研究会というサークルに入り、太陽黒点の観測、天体写真撮影、ポタ赤自作等、かなり熱心に活動してはいたんですよ。ただし、卒研で1日7~8時間も顕微鏡下の細胞の測定や撮影を強いられていた頃だけは、たとえ星を見る為であってもレンズをのぞく気にはとてもなれず、黒点のスケッチしかやりませんでした。

卒業後、Uターンしたいのは山々でした。何だって故郷が一番。それに熊本には天文台がある。けれど、4年もたつと身近に種々変化がおき、そう簡単に帰るわけにもいなくなってしまうのです。それで、当分京都の小さな会社で化学屋をするはめになりました。さすがに会社務めだと、星を見る余裕はあまりなく、『星屑』が届いたりすると、こうやって自分の天文活動華やかなりし過去を思い出しては、あせってみたり、寂しがってみたりするのです。ま、ここで諦めるようでは火の国女の根性が泣きますね。「仕事と天文の両立」! 多くの先輩たちはこれを克服して天文を続けているんですから、とはいえ……

……最近やたらと星空が恋しい。なのに、零時をまわるともう“まぶた仲良し”の私です。

1986・星との遭遇

九女短天文部部长 古田 富代

星座といえば、オリオン座・獵座位しか知らなかった私達が、天文部に入部して、短い長いような半年が過ぎました。この半年の間には、様々な発見、失敗がありましたが、今回はその波乱に富んだ半年を振り返ってみようと思います。

5月5日(みずがめ座流星群)この日、初めて天文台にやって来ました。藤山までバスで来て、そこからは師匠に迎えに来ていただいたのですが、その時の怖さといったら並大抵のものではありませんでした。あの細い曲がりくねった道を、猛スピードで登られるのです。私達は、恐怖のあまり顔を引きつらせ笑うことしか出来ませんでした。このようにして、私達の天文台での第一日目が始まったのです。天文台に着いた早々、ぐったりと疲れてしまった私達。ここで負けてはいけない！と気を取り直し、星の観測をやっていると、突然、熊大の方々がいらっしゃいました。この日は丁度、みずがめ座流星群の極大日にあたり、熊大と合同で流星観測を行うことになったのですが、流星群を見るなど初めての私達、感激のあまり自分の受け持ちの番号、等級を答える前に悲鳴をあげて、ひんしゅくをかったり、熊大の方と同じ流星を見て叫んだ等級が違い、思わず黙り込んでしまったりと、熊大の方々の足を思いっきり引っ張ってしまいました。

8月12日(ペルセウス座流星群)この日、天文台に来たのが4人。ペルセウス座流星群の極大日だったのですが、熊大の方々がいらっしゃらなかったもので、4人で観測をすることになりました。しかし、1人は記録をするので実質的には3人で全天を見るわけです。流れる度にパニック状態に陥ってしまいましたが、それでも2時間で約百個の流星を観測することができました。

10月11日 学園祭に展示する写真を撮りに天文台にやって来ました。生憎、曇りで写せるか不安だったのですが、祈りが通じたのか何とか展示出来るものを写せました。(と言いましても、準備はほとんど熊大の方にやっていただき、私達はシャッターを押すだけでした。)

10月18日(皆既月食)今年2度目の皆既月食だったのですが、残念ながら曇りです。(何故か私達が天文台に来る時は、きまって曇りなのです。)いよいよ月食が始まりました。と言っても、肝心の月は厚く垂れ籠めた雲の切れ間からしか見る事が出来ません。ほとんど雲とのにらめっこでしたが、何とか月食の様子を写すことが出来ました。実は、ここまでは良かったのですが、あるうことか、せっかく撮ったフィルムの上に重ね撮りをしてしまったのです。何を写したかといえますと、この私です。さすがにこの時ばかりは立ち直ることが出来ませんでした。

私達のこれまでの活動は、他の方々の御指導と励ましのお陰で成り立ってきました。これからも

何かとお世話になることと思いますが、私達に、多くの事を学び取っていきこうという、やる気と欲が出てきたのも確かです。本当に、危なっかしい私達ではありますが、精一杯がんばってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

自己紹介

甲斐 謙一

毎度、熊本大学 工学部 金属工学科の甲斐です。熊本土着の原住民で、嘉島町の甲斐神社(足手荒神)に祀られている甲斐宗運の血をひいています。

天文台には、開台もない頃からお世話になっておりますが、交通機関を自転車に頼ってはいなかなか足も向かず、たま〜に訪れる程度でした。大学に入り、心機一転を謀って熊本六町に入った訳ですが、天文の奥の深さを知らされるばかりで、来年の新入部員のことを考えると憂色の日々を送らなければならない今日この頃です。

最近黒髪祭(黒髪町から、その字を取り、コクハツサイと呼ぶところが粹である)・体育祭と忙しく、天文台ともたいぶ御無沙汰していますが、12月に熊大天研が主催する写真展に出品する作品を撮らなくてはならないので、これからは天文台通いも多くなることと思います。もし写真を撮っている姿を御覧になった時は、どうか励ましの言葉をかけて下さい。たぶん、ぐ切に追われ苦悶していることと思いますので。

(閑話休題)

大学に入学してから、早7ヶ月(皆様の御手もとに届く頃は、もう8ヶ月になっているかも)、いろんなことがありました。きついF観(早起きが苦手で、苦心の策として徹夜:寝なければ起きなくてもいいという安易な発想:もしばしば)、忙しかった月食、感動の火星食(大学のレポートに使ったぐらい印象深い)、楽しい九重合宿(別府、城島はすばらしい)、恐怖のテスト、先にも述べた黒髪祭(学園祭実行委員で電気担当)、体育祭(我が採治団は総合優勝)etc. etc. 大学に合格はしたものの、噂に聞く大学生活についていけるかと心配することもありましたが、いたってマイペース、楽しいばかりです。今のところは写真撮影(晩秋の時期になると、なぜか目が向いてしま)で手一杯ですが、将来はビデオ(AVを特技、趣味としています)もどんどん活用させていきたいと思っています。ビデオは、火星食の時のように、多くの人に連続して星の動きを伝えることができるし、記録としても、その有効性は明らかだからです。

とはいえやはり望遠鏡をのぞくあの感動は忘れられず、スケッチもしていきたいと思っています。防寒が必要な季節、皆様方、御体にお気をつけて、澄んだ星空を御堪能下さいように。

天文台日誌より

☆10 / 1 艶島さんが、パソコン通信を必死にやっている。見ても、なんだかさっぱり“わかりませ〜ん” (中川)

☆10 / 3 吉田編集委員、悪せん苦とうして小林Jさんに記事依頼してました。「4ページおねがいします」「いや2ページ!」「3ページではどうですか」「2.5ページ!」
小林Jさんは値切るのがうまい! 吉田君、ごくろうさん。 (新村)

☆10 / 8 薄曇りめで安心していたらだんだん晴れてきた。7時半にやっと天文台に到着。
「なぜか水曜日」にはだれもこない。 (艶島)

☆10 / 9 徹夜はやっばりきつい。今日はゆっくりねましようネ。 (冨永)

☆10 / 31 今日風雲たけし城は全部見れなかった。 (安達)

☆11 / 5 きょう快晴だったのに芳野さんが天草から帰ってきて松橋まで雲をつれて帰った。
松橋から市内に帰られたら天文台は快晴になったそうです。芳野さんの力は偉大だ
次に雲の動きと芳野さんの動きを見てみましょう。 (冨永)

※上記の文を抜粋したのは私です!“雲男ではない”と信じつつも、実績が積ると
どーも．．うーむ．．さーて．．どーしたのか．．困ったもんだ(編集担当)

☆11 / 6 ただのお客さんのふりをして通そうと思ったら、寿郎さんに見つかってしまった×
×× (九女短)

インフォメーション

☆熊本大学天文研究会・同好会 天体写真展のお知らせ

12月15日(月)より12月17日(水)まで、熊本大学学生会館1Fロビーにて月・惑星・
星野・星雲星団の写真及び惑星のスケッチなど約30点を展示の予定です。どうぞ、御覧になっ
て下さい。時間は朝9時より夕方5時までです。

☆会員の永井聡さんが天体観測所を作られ、11月9日開所式がありました。観測所は高森町で根
子岳を正面に眺まれます。鏡筒はミカゲの21cm反射で、その他、赤道儀、ドーム、建物、すべ
て手作り、赤道儀はデジタル制御でメーカー並の高精度です。又ドームもセンサーの働きで自
動的に回転します。

★熊本県民天文台 年末年始休台日のお知らせ

当県民天文台では、12/29日より1/4まで年末年始の休台日となっています。

編集後記

芳野 浩之

今年も残すところあとわずかになってしまいました。朝の冷えこみは、ふとんから出るときに勇気を与えてくれ、お昼の冷気は、まどろみの中に寒さを与えてくれ、そして夕方ふと西の空を見上げると、今なお夏の大三角。おーまだまだ冬は遠しと思いきや、手はポケットに。(いやな季節の到来です)最後に夜 こたつに入ってテレビをつけてみかんを食べる。(いい季節の到来です)そんなわけで、みなさんいかがお過ごしでしょうか? 冬の到来に外へ出たくないと言っている人、外へ出れば楽しいことが一杯ありますよ! まず夜、透みきった美しい星空をながめてみて下さい(体の芯まで冷えこむことでしょう)。そして望遠鏡でオリオン星雲をどぞ(望遠鏡を握る手はきっと動かなくなるでしょう)。最後に美しい星空にむかってカメラをむけるのです(そうこうしているうちに全身氷と化します)。うわーなんという寒そりな編集後記。

※今月号で私も10月号の吉田君同様、星屑の編集をお終りにいたしました。この一年間、毎月星屑を発刊できたのも皆様方のおかげと感謝致しております。どうもありがとうございました。これからも星屑をよろしくお願い致します。

==== P.1 DATA ==== 馬頭星雲

1986年 11月 6日

00°42'15"-00°47'30,

f-200 F4 高倍、ペンタックス MEスーパー

撮影地 : 熊本県民天文台

フィルム : SR1600

撮影者 : 渡辺 知史

現像 : HAC1600

30度 9分

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1986年12月号 通巻145号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 芳野浩之